

北海道新幹線新小樽(仮称)駅周辺  
まちづくり計画

小樽市

平成29年3月

## 4-3 施設整備計画

### (1) 施設整備計画の基本的考え方

新小樽（仮称）駅周辺地域における施設整備計画の基本的な考え方を整理します。（図 4-3-1）

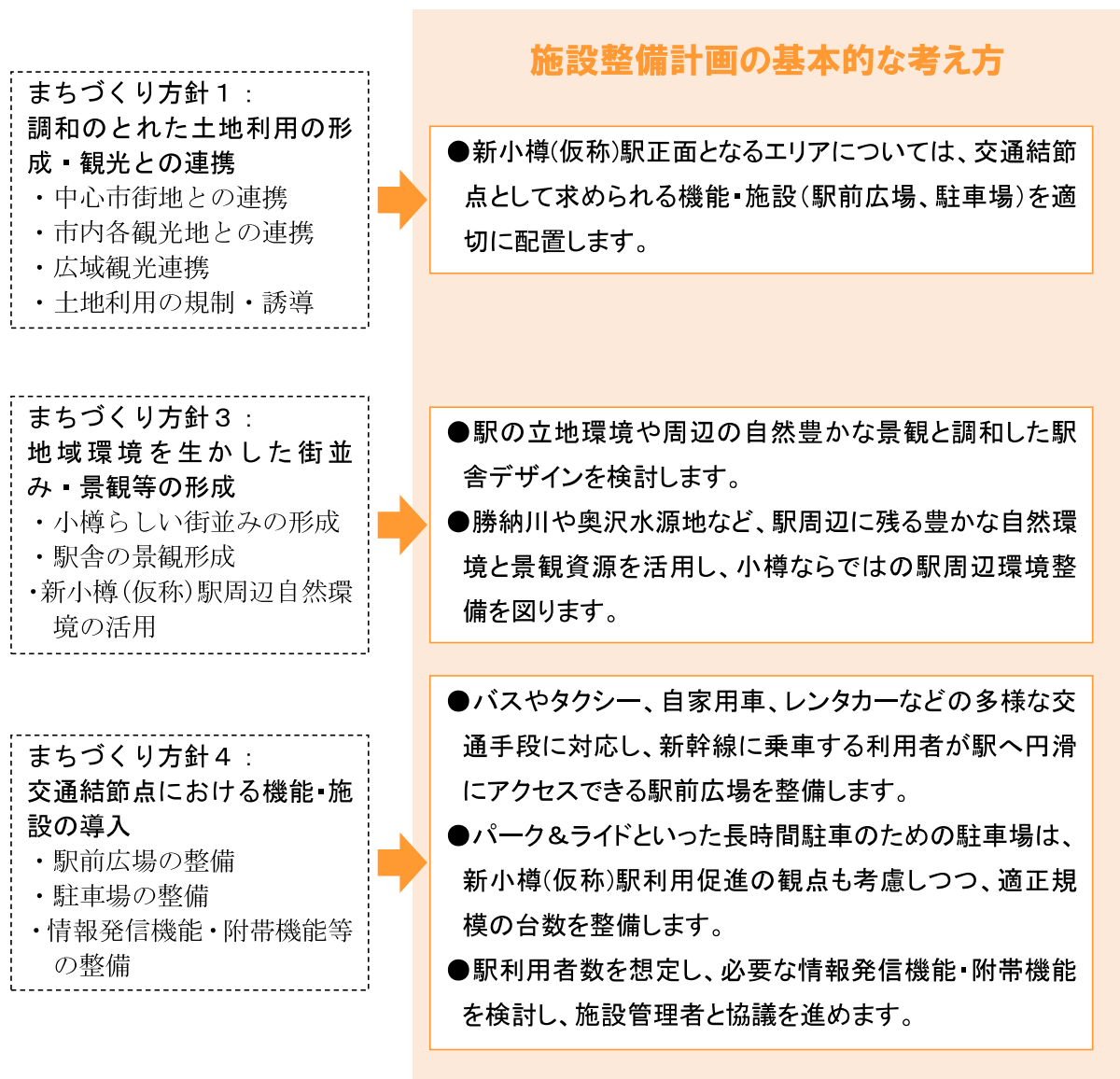


図 4-3-1 施設整備計画の基本的な考え方

## (2) 駅舎

### 1) 駅舎の導入機能

#### ① 駅施設・附帯施設

##### ○まちづくり方針

- 1 調和のとれた土地利用の形成・観光との連携
- 2 交通ネットワークの形成
- 3 地域環境を生かした街並み・景観等の形成
- 4 交通結節点における機能・施設の導入

##### ●情報発信機能・附帯機能等の整備

・新小樽(仮称)駅の利用者には、様々なニーズがあると考えられます。これらニーズを満たすため、駅利用者数を想定し、必要な情報発信機能、附帯機能を検討し、施設管理者と協議を進めます。

※近年の新幹線駅事例、WS意見、駅利用者想定等を踏まえて想定

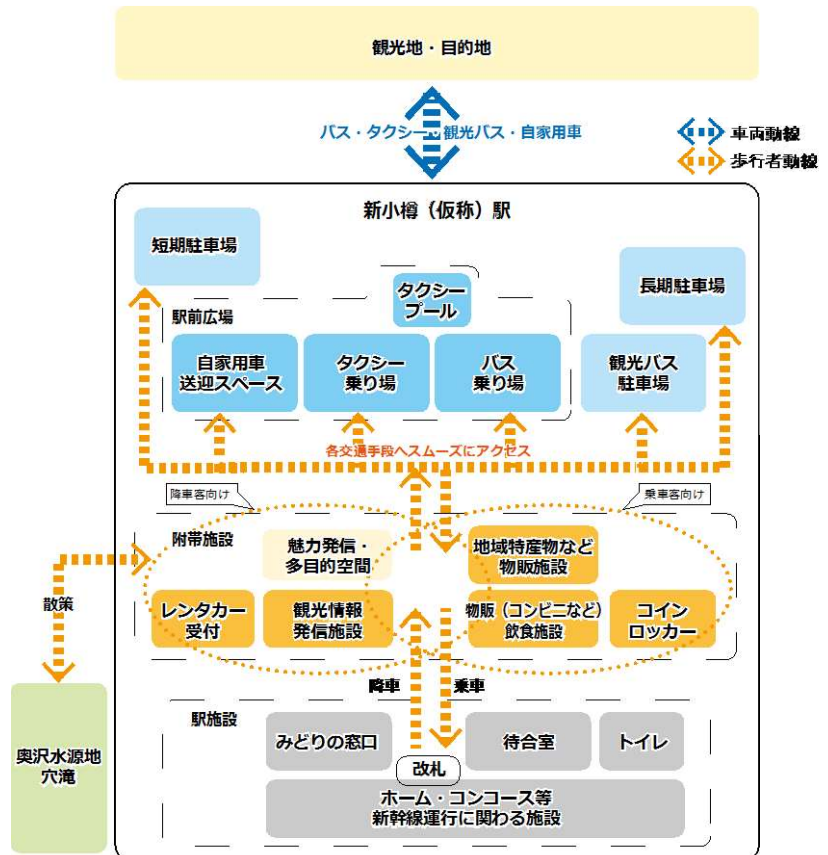
駅施設
機能
①ホーム、コンコース等新幹線運行に関わる施設
②みどりの窓口
③待合室、トイレ

附帯施設	想定される機能	
	降車客向け	乗車客向け
①レンタカー受付	○	△
②観光情報発信施設 (案内、相談、その他インフォメーション端末)	○	○
③魅力発信・多目的空間	○	○
④地域特産物など物販施設	△	○
⑤物販(コンビニエンスストアなど)及び飲食施設	△	○
⑥コインロッカー	△	○

#### ② 各機能のつながり・動線

駅の改札からバス・タクシー等の各交通手段まで、誰もが分かりやすく通りやすい動線を確保します。

滞留・交流する空間を中心に、駅施設や駅前広場、周辺の奥沢水源地等へ円滑にアクセスできるよう機能配置やサインの設置、出入口の設置等を行い、分かりやすい動線を確保します。(図 4-3-2)



注：実際の施設配置・規模を表しているものではありません。

図 4-3-2 各施設の動線イメージ

## 2) 駅舎デザインの方針

### ① 小樽の顔づくりの要素の抽出

新幹線駅の顔づくりを形成する環境要素として、「自然環境・都市環境」、「歴史・文化」、「生活・活動」の3つの観点から小樽の顔づくりの要素を抽出します。

(図 4-3-3)

要素の抽出に当たっては、**広域的な視点**（北後志地域を対象とした視点）、**中域的な視点**（小樽市内を対象とした視点）、**即地的な視点**（天神地域を対象とした視点）から整理します。(図 4-3-4)

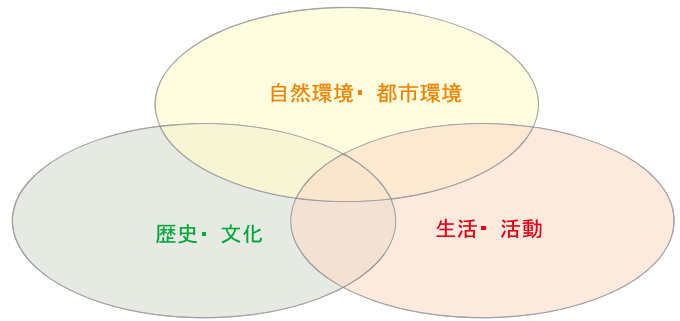


図 4-3-3 顔づくりの形成要素を抽出する観点

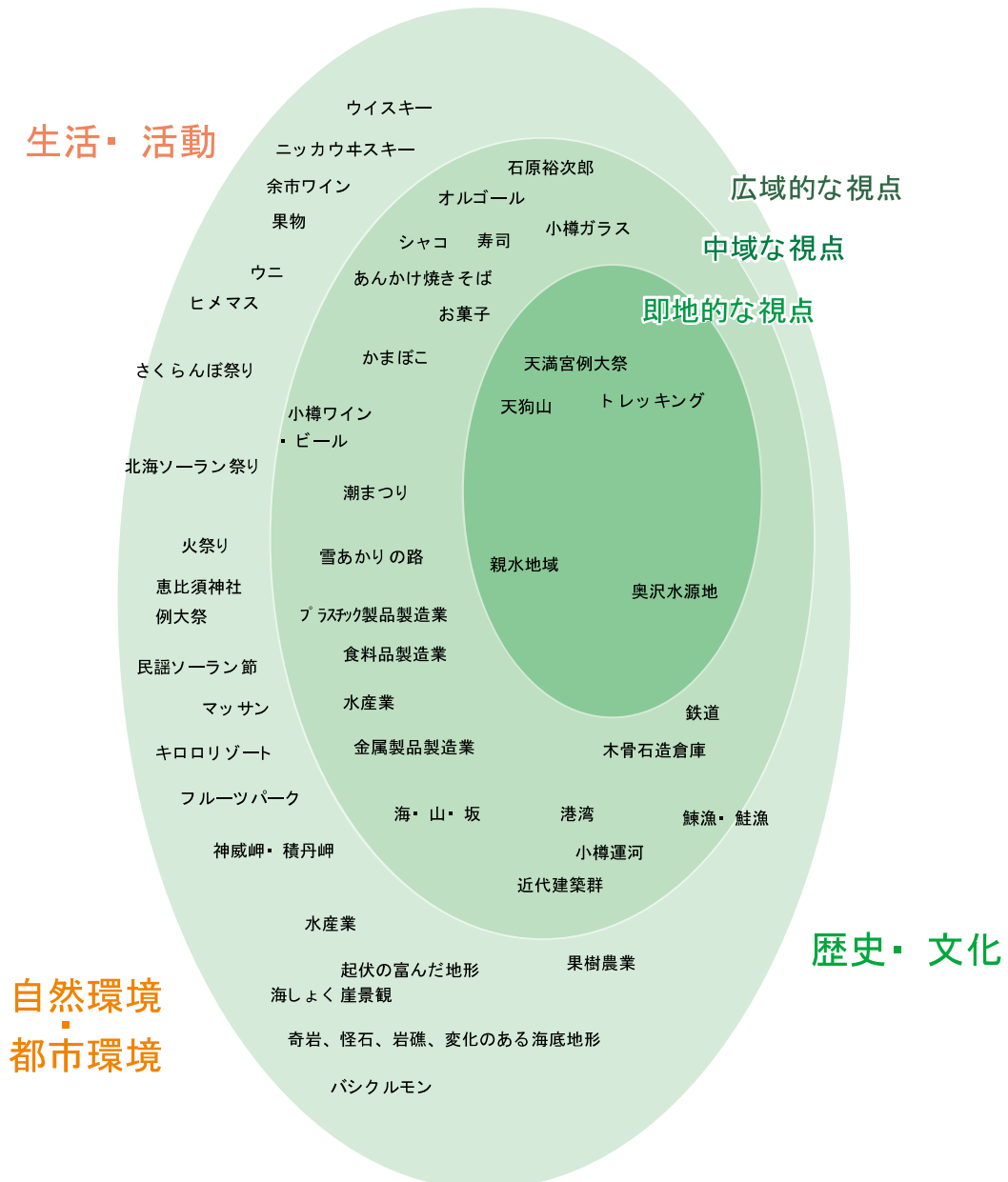


図 4-3-4 小樽の顔づくりの要素イメージ

② 駅舎デザインの方針

●まちづくり方針

- 1 調和のとれた土地利用の形成・観光との連携
- 2 交通ネットワークの形成
- 3 地域環境を生かした街並み・景観等の形成
- 4 交通結節点における機能・施設の導入

●駅舎の景観形成

- ・駅の立地環境や周辺の自然豊かな景観と調和した駅舎デザインを検討。

●ワークショップでの意見

- ・展望台をつくるなど、駅から海が見えるようにならないか
- ・木造の道の駅のように親しみやすい建物がよい
- ・自然になじむように駅舎の色を設定すべき

●小樽市景観計画

●小樽の顔づくりの要素

【デザイン方針】

歴史  
・文化

○歴史的蓄積を持つ小樽の象徴として風格、懐かしさが感じられる空間

自然  
・都市

○多様な人々を迎え、期待感を高める玄関口として明るさ、開放感が感じられる空間  
○自然豊かな周辺環境と調和した、落ち着いたある快適な空間

生活  
・活動

○地域住民が愛着を持てる居場所としての温もり、心地よさが感じられる空間  
○ユニバーサルデザインによる、全ての人々が利用しやすく、安全で快適な空間

デザイン参考例

コンセプト例

「人と歴史を未来につなぐ架け橋」

